

刊行にあたって

歯の破折は患者さんにとって、破折歯のみならず咬合や審美、心理面にも大きな影響を与えます。また、歯の破折はわれわれ臨床医にとって、緊急かつ適切に対応する必要があります。近年のインターネットの急速な普及により、患者さんのもつ情報量も以前と比べものにならないほど豊富になり、歯をできるかぎり残したいという要望が高まっています。破折歯も同様に保存の要望が強く、そうした時代のニーズに応えることがわれわれ歯科医師の使命と考えます。

そこで、臨床で遭遇する歯冠破折から歯根破折まで、歯の破折にスポットをあてて、いざというときに役立つ歯の破折の症例を詳細に分類し、その術式のコツと勘どころをわかりやすく解説した本を作りたいと考えました。読者の先生方の臨床に明日からでも活かせるように、日本外傷歯学会が2012年に改定した『歯の外傷治療ガイドライン』と米国歯内療法学会が2013年に発行した『外傷歯治療のガイドライン』をもとに、本書『臨床力アップにつながる 歯の破折の診断と処置』を企画いたしました。

第1章の「歯の破折の診査、診断と治療」では、外傷歯の分類とガイドライン、診査、歯の破折の診断、治療、経過観察について解説し、歯の破折の治療の概要を解説しております。第2章の「歯の破折の処置(症例別対応)」では、臨床で遭遇する歯の破折症例として、永久歯の亀裂への対応、露髄を伴わない歯冠破折、露髄を伴う歯冠破折、歯冠歯根破折、歯根破折、歯根破折による抜歯後の対応、乳歯の破折への対応、高齢者の歯の破折への対応、その他として歯の破折片による口唇の裂傷への対応の9項目に分け、それぞれの症例をわかりやすく紹介しています。第3章の「歯の破折の予防」では、破折を起こさない根管形成、歯の破折を起こさないための支台築造、スポーツマウスガード、歯の破折予防(外傷予防の観点から)、歯の破折の法医学的側面について、各分野の専門の先生にその要点をまとめていただきました。

臨床で遭遇する歯の破折について、多くの症例を経験しておられる第一線の先生方にご執筆いただき、最新の知見をもとに解説した非常にわかりやすい内容となっております。本書を一般開業医の歯の破折に対する最新のガイドとしてご一読いただくことで、読者の先生方が行う歯の破折の治療のスキルアップに繋がれば幸いです。

2014年9月

編集委員 北村和夫